

（2）特色ある教育活動

ア ファシリテーションの手法を用いた対話的な授業の展開

主体的で対話的な活動を活性化させるために、また深い学びに直結できるように、生徒が自分で考え、生徒が主役となる時間を重視した授業を展開する。特に、生徒にファシリテーターの手法を習得させ、言語能力を高めていく。

イ ICT機器の活用と情報活用能力の推進

各教科の特質や学習過程を踏まえて、生徒が学習ツールの一つとしてICT機器を積極的に活用する。ICT機器を用いて積極的な意見交換を促し、オンライン授業においても生徒が効率よく学習でき、生徒が主役となれる授業を進めていく。また、ICT機器に記録を残し、正確に評価する。

ウ 3年間を見通したSDGsの学習

2030年を決着点とするSDGsに向けて、「総合的な学習の時間」を核に、知る、広める、深める体験を重視し、一つ一つの目標に向けての解決策を協働で考えさせ、課題解決能力を身に付けさせる。また学期ごとに年に3回、ThinkingからDoingプログラムに繋げる取組も行う。3年間の見通しをもち、生徒主導で、生徒一人一人の思考及び行動につなげていけるようにする。

エ キャリア教育の推進

職業調べ、社会人講話、上級学校の先生による体験授業などを通して、自分の生き方を考え自己理解を進める。基礎的・汎用的能力を身に付け、正しい職業観・勤労観を養わせる。

オ 教育相談を基点とした指導体制の維持

毎週一回実施する管理職、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、各学年特別支援担当、養護教諭で組織する教育相談会の内容を充実させ、情報共有を図りながら、具体的な支援の在り方を確認する。

カ 学校図書館の利用者拡大と特別支援教育の充実

各教科において図書館利用を活性化し、情報活用能力を育てる。図書委員会の主催で、推薦図書紹介、読書推進のための日本一周読書マップ運動、ビブリオフォーラムの3つの自主的な活動を展開し、情操の育成と言語に関する能力の向上を図る。年に2回の読書月間を設け、読書の習慣の定着を図る。さらに、図書室に校内フリースクールとしての役割をもたせ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を強化する。

キ 四中数学ルームの充実

教育インターンシップ生及び教職大学院生、ボランティア等を中心に講師を編成し、基礎的な数学の問題を指導する。開室は週一回放課後に設定する。